

学校名	山梨県立盲学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 81回 (運動会、オンライン等)
	地域交流 : 12回 (治療奉仕、花の苗植え等)
	居住地校交流 : 4回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	沖縄県立盲学校とのオンライン交流 (国語科「新聞をつくろう」)
実施した学部・学年	小学部4年
<u>実践の様子</u>	
 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-left: 20px;"> <p>互いに国語の授業で作った新聞を発表し、質問や良かったところを伝えあった。沖縄の児童の新聞には沖縄戦について調べた内容があり、初めて知り驚いていた。発表後は休みにどこに旅行に行ったか、好きなキャラクターは何かなど会話を楽しんだ。</p> </div>	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続きオンライン交流を行うことができ、合同授業を互いに楽しみにしている様子が見られた。盲学校は同学年の友だちの意見を聞く機会が少ないので、他県の児童と同じ単元の学習をし、意見を交換できることは貴重である。授業後はフリートークの時間を設け、会話を楽しんだ。 ・全盲と弱視の児童が交流するにあたり、「〇〇です。聞こえますか」「はい」等話し手と聞き手のルールを確認した。 ・担任間で年度初めに連絡を取り、どの教科のどの単元をオンライン授業にすると、学びが深められるかを検討した。 ・学期末に単元のまとめとして行うことで、互いに授業の進度を気にすることなく実施することができた。 	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度同様、早い時期に担任間で連絡を取り計画を立てる。 ・事前に通信のチェックを行うことで当日スムーズにオンライン交流を行うことができた。 	

問い合わせ担当 (市川 いつか)

学校名	山梨県立ろう学校	
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流	29回
	地域交流	10回
	居住地校交流	22回
特徴的な実践例・工夫点		
授業名	春日居中学校文化祭への参加・ろう学校学園祭への招待	
実施した学部・学年	中学部・全学年	
実践の様子		
		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>春日居中学校文化祭 自分たちのきこえについての話や手話の紹介。</p> </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ろう学校文化祭 生徒が交流を通して悩み、成長してくという劇の発表。最後に春日居中学校の生徒に向けて一人ひとりメッセージを伝えた。</p> </div>	
		
児童・生徒の様子や実践の工夫点		
<p>春日居中学校の文化祭に参加し、きこえやろう学校に関する話、クイズ、手話パフォーマンスなどを行った。春日居中学校の生徒から「手話を楽しんで覚えられて良かった。」とのメッセージを受け取り、生徒は自信につなげることができた。ろう学校の文化祭には、福祉交流委員会の生徒を招待し、劇やダンスの発表を行った。劇の台本は交流を通して考えたことをまとめて作り、聴覚障害に関する悩みをもちながら成長する等身大の役を演じた。劇の終わりには、春日居中学校の生徒に向けて一人ずつ自分の思いを伝えた。自分のきこえや伝え方について考え、春日居中学校の生徒に聴覚障害を知ってもらおう貴重な機会となった。</p>		
課題点・次年度以降に向けて		
<p>交流の成果を高めるためにねらいを明確にし、双方で共有した上で、計画的に進める必要がある。今年度は、生徒が主体的に話し合い、「自分のきこえ」について知り、「伝え方」について考えながら交流することをねらいとした。活動後に振り返ったり相手の立場を理解する時間を設けたりすることで、コミュニケーションにおける工夫を意識できるようになった。文化祭では、自分のきこえ等について考え、相手に分かりやすく伝えることや手話について興味をもってもらうことができた。聴覚障害についての正しい知識を知ってもらうことや伝えることの感動、楽しさを感じるとともに互いに認め合うことができる交流を今後も続けていきたい。</p>		

学校名	山梨県立甲府支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 13回
	地域交流 : 5回
	居住地校交流 : 12回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	音楽活動（自立活動）「太鼓をたたこう」
実施した学部・学年	中学部
実践の様子	
	
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p> <p>中学部の音楽活動の時間に池田地区のおやなぎ連の方と交流を行った。間近で聴く太鼓の音は迫力があり、「ドン！」という振動に驚きながらも笑顔いっぱい楽しんでいる様子が見られた。普段聴くことのできない笛の演奏もあり、貴重な体験ができた。活動内容は鑑賞の時間と演奏体験の時間を設け、おやなぎ連の方と生徒が交流できるように工夫した。活動時間が50分と限られていたため、「はじめの会」「おわりの会」の内容を精選し、活動時間を多くとれるようにした。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>例年は学園祭に招待し、交流を行っていたが、コロナ禍のため、直接交流ができないことが続いていた。昨年度は演奏の様子を撮影させていただき、間接交流を行ったが、今年度約5年ぶりに直接交流を再開することができた。おやなぎ連の方からも「太鼓の音を生で聴いて振動を感じてもらいたい」というお話もいただき、今後も直接交流を続けていきたい。また、今年度は中学部の限られた生徒との交流だったため、今後は全校の児童生徒との交流ができるように計画していきたい。</p>	

問い合わせ担当（ 清水 亜希子 ）

学校名	山梨県立あけぼの支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 11回
	地域交流 : 1回
	居住地校交流 : 8回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流 増穂南小・甘利小の友達と交流しよう！ (特別活動・道徳)
実施した学部・学年	小学部全員
実践の様子	
福祉講話の様子	
	
オンラインでの交流の様子	
	
児童・生徒の様子や実践の工夫点	
<p>本校小学部では、増穂南小学校、甘利小学校とそれぞれTeamsによるオンラインでの交流を行った。本校小学部の5つの学習グループに合わせ、5グループに分かれて行った。増穂南小学校との交流会では、質問コーナーを設けて質問をし合ったり、合奏や歌を聞かせてくれたりとお互いにやりとりを楽しんだ。甘利小学校との交流では、本校の児童のために甘利小学校の児童たちが教材を作成し、交流会当日に実際に本校児童が教材を使っている様子を見てもらい、児童の表情や言葉から嬉しさや喜びを伝え合うことができた。事前に、本校が児童の自己紹介カードと児童の様子がわかる映像を送り、児童の理解をより深められるよう工夫した。また、事前に各相手校で本校教員が福祉講話を行った。本校の施設や児童生徒の様子を映像で紹介したり、車いすやポッチャ体験を行ったりして、イメージをもって事前学習を行えるよう工夫した。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>成果として、事前に福祉講話や車いす体験を行ったことで、本校への理解や交流への期待感が高まった。交流会当日は、Teamsを活用し、グループごとに時間を確保し交流が深められるようにした。1年生から6年生までが毎年継続して交流することで、交流の経験が積み重ねられ、児童の記憶の中に大きく残っていることを実感した。課題としては、健康面への配慮が特に必要な本校児童の実態や各小学校での多忙化に伴い、以前のように対面での交流の実施が難しい現状がある。そのような状況下であるが、お互いの理解を深め、相手を思いやる交流を目指し、今後も交流の方法については状況に応じて検討していく。オンライン・対面等、交流の形式に応じて内容を工夫し、相互に協力しながら交流することの大切さを再認識していきたい。</p>	

問い合わせ担当 (清水 絵美)

学校名	山梨県立わかば支援学校 ふじかわ分校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 4回
	地域交流 : 3回
	居住地校交流 : 2回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流：一緒にゲームを楽しもう（特別活動）
実施した学部・学年	小学部1～6年生
<p>実践の様子</p> <p>1学期、2学期にそれぞれ1回実施。相手校は5年生14名。 1回目は本校で、2回目は相手校で実施し、2回目のゲームは相手校の児童が本校児童と一緒に楽しめるように内容を検討してくれた。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>1回目</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  <p>2回目</p> </div> </div>	
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p> <p>本校児童は毎年交流を行っているが、相手校児童にとっては初めての交流となる。交流会前に自己紹介カードを交換し、お互いに意識できるようにした。また、1回目の交流会では、本校児童が慣れている活動で相手校児童も楽しめそうな内容として、「大型三輪車リレー」「ふわふわ風船キャッチ」を用意した。「大型三輪車リレー」では、運転者は後ろに乗る児童を振り落とさないように気を配りながら楽しむことができた。「ふわふわ風船キャッチ」は、ホールいっぱいに広がった風船を色分けして袋に入れるのを、相手校の児童が本校児童を誘導してくれ、楽しく交流することができた。</p> <p>また、この交流会での経験を生かして2回目の交流会では、「ボーリング」「たからをさがせ玉入れゲーム」などを行った。ボーリングの球を何種類も用意したり距離を3段階設定したり、本校児童と一緒に楽しめるように相手校児童と担当教師で細かい部分まで考えてくれ、楽しく交流することができた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>相手校では、例年5年生が本校との交流を行うことが通例となっている。本校が小規模校のため、同学年の児童と毎年交流を行い学年進行とともに理解を深めていくという形はとれていないが、5年生という発達段階で交流を行うことで本校児童の行動を理解したり対応したりといったことができていると思われる。また、低学年同士の屈託のないかわりは経験できないが、ある程度大人の対応をしてくれるので、本校児童も安心してかかわることができている。</p> <p>相手校の児童が進学する中学校と本校中学部で学校間交流を行っているが、相手校が来年度統合することもあり、中学部での学校間交流をどのような形で行うか未定である。</p>	

問い合わせ担当（ 山本 千峰 ）

学校名	山梨県立やまびこ支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 6回
	地域交流 : 6回
	居住地校交流 : 12回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	ボールを使った体づくり（保健体育）友達と関わろう（自立活動）
実施した学部・学年	中学部・全学年
実践の様子	
	
児童・生徒の様子や実践の工夫点	
<p>例年、本校中学部生徒と猿橋中学校のかけ橋委員会（奉仕委員会）の生徒が、お互いの学校を行き来する形で交流を実施している。コロナ禍で間接交流やオンラインでの交流が続いたが、今年度は5年ぶりに対面での交流が実施できた。交流に見通しや期待感をもてるよう、事前に自己紹介カードの作成、交換を行った。交流当日は、ボール運びと転がしドッジボールを行った。短時間だったが、体育的活動で本校の生徒にもわかりやすい内容だったこと、ペアで協力する活動を取り入れたことで、楽しみながら取り組むことができた。自然と関わりが生まれ、はじめは緊張していた生徒達も、活動を通じて笑顔が見られるようになった。交流後は、お礼の手紙をやり取りすることで、活動の振り返りと次回への期待感に繋げることができた。また、2回目の実施に向けて本校の教員が相手校に出向いて打ち合わせを行い、助言を行った。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回目の交流は、11月に相手校に出向き、かけ橋委員会の生徒が企画して実施予定だったが、感染症の蔓延が懸念され、直前で中止となった。両校の生徒達が楽しみにしていたので残念な結果となった。日を改めて実施するか、手紙のやり取りなどの間接的な交流を実施するか、両校の担当者同士で検討中である。交流相手が学年を超えた縦割りグループの委員会であるため、別日での実施が難しい場合は、ビデオレターのやり取り等を行う予定である。 ・ 2回目の交流が2学期後半に設定されていることから、時期的に感染症の蔓延が心配される。本校には医療的ケアの必要な生徒が在籍しているため、今後は時期の検討が必要である。 ・ 急遽対面での交流を行えなくなった場合にオンライン等で実施できるよう、両校で準備していく必要がある。 	

問い合わせ担当（ 山口 清美 ）

学校名	山梨県立ふじざくら支援学校	
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流	8回
	地域交流	8回
	居住地校交流	11回
特徴的な実践例・工夫点		
授業名	学校間交流：友達を知ろう、一緒に遊ぼう（特別活動）	
実施した学部・学年	小学部全学年	
実践の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>グループの児童全員で桶を持って ボールをかごに入れる</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>車いすの児童がボールを転がしてゲームスタート</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 30%;">  <p>ふれあい遊び</p> </div> <div style="width: 30%;">  <p>ダンスの発表</p> </div> <div style="width: 30%;">  <p>フープリレー</p> </div> </div> </div>	
児童・生徒の様子や実践の工夫点		
<p>学年の実態に応じた遊びやルールを設定したことで、どの児童も楽しく活動することができた。全学年が学習の成果を発表し合う場面を設定したことで、互いの良さや頑張りを認め合うことができた。</p> <p>2年生の実践では、1回目、2回目ともに4つのグループをつくり、ふれあい遊びやゲームを行った。8人（本校2～3人、相手校5～6人）のグループのため、自然と関わりがもてていた。授業で取り組んでいる活動やフープリレーなど、本校の児童にとって分かりやすく、また車いすの児童も活躍できるものを扱ったことで、相手校の児童にも取り組みやすく、互いに声を掛け合う場面が見られた。</p>		
課題点・次年度以降に向けて		
<ul style="list-style-type: none"> ・両校の担当で打合せを重ねたことで、充実した内容で活動することができた。来年度以降も連絡を取り合い、両校の児童が楽しめる活動を設定する必要がある。 ・互いを知ったり考えたりする機会として、学年の実態に応じて、活動内容を児童が考える時間を設定していきたい。 ・さらに有意義な時間にするために、障害理解を深めるための活動を検討していきたい。 		

問い合わせ担当（ 田村 沙織 ）

学校名	山梨県立かえで支援学校	
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流	： 9回（間接交流4回）
	地域交流	： 9回
	居住地校交流	： 12回
特徴的な実践例・工夫点		
授業名	学校間交流：互いに知ろう（特別活動）	
実施した学部・学年	中学部1学年	
実践の様子		
1回目：『繋いで、くぐって、GO,GO,GO』		集合写真
		
2回目：『ジェンカリレー』		東中学校の生徒から X'masカードのプレゼント！
		
児童・生徒の様子や実践の工夫点		
<p>それぞれの学校を会場として、直接交流会を2回行った。1回目は『繋いで、くぐって、GO, GO, GO』の見本を両校の教師が行うことで、生徒もゲームを通してかかわることへの期待感もてたように感じた。また、手を繋ぎ続けることが難しい生徒は、タオルやフープを用いて一緒に活動する事ができた。2回目は東中学校の生徒が考えたジェンカリレーとマイムマイムを行った。その後かえで祭で行った『武田節』や合唱祭で歌った『栄光の架け橋』を互いに披露しあった。本校の生徒は普段大人数の合唱を聴く機会がなく、迫力ある歌声に感動し東中学校の生徒に「歌、上手だったよ」と自然に声をかける姿が見られた。交流後には、メッセージカードのやり取りをすることができ、より互いのことを知ることができた。今後も取り入れていきたい。</p>		
課題点・次年度以降に向けて		
<ul style="list-style-type: none"> ・課題点については、障害理解や交流及び共同学習についての共通理解が必要。 ・次年度以降に向けて「してあげる、してもらうの関係」を脱却するために教員間の共通理解を図り、活動の中でお互いに対等な関係を築いていくことが重要だと考える。学校間交流では、相互作用が期待できる活動であり、自主性が大きく関係する活動で、個人と個人の間関係を作りやすい場の設定を検討していく必要があるのではないかと考える。 		

問い合わせ担当（ 古屋 藍 ）

学校名	山梨県立高等支援学校桃花台学園	
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流	7回
	地域交流	19回
	居住地校交流	0回
特徴的な実践例・工夫点		
授業名	学校間交流（笛吹高等学校）：専門教科（食品加工コース）	
実施した学部・学年	高等部 食品加工コース2・3年生	
<u>実践の様子</u>		
		
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>		
<p>笛吹高校食品化学科の2・3年生10名が来校し、本校食品加工コース2・3年生9名と交流を行った。両校が「食品」を取り扱っていることから授業の様子を紹介し合ったり、班に分かれてのグループワークを行ったりした。グループワークでは、各校で製造している加工品を組み合わせることでコラボ商品を考えて、ワインを入れたカップケーキや笛吹高校のマーマレードを使ったパンなど魅力的な商品がいくつも考案された。交流会の始めはお互い緊張した様子だったが、アイスブレイクのゲームで打ち解けた後は笑いあったり、自然と会話が生まれたり和やかな雰囲気での交流の様子が見られた。</p> <p>【生徒の感想】 本校：笛吹高校では、ワインなど自分たちが知らない特殊な加工品を製造していることを知って勉強になった。コラボ商品を考えられて良かった。 笛吹高校：授業を見学して、自分たちに比べて多種類のパンを製造していたり、作業が素早かったりして驚いた。コラボ商品を考えることが楽しかった。</p>		
課題点・次年度以降に向けて		
<p>笛吹高校との学校間交流においては、これまで生徒同士が直接かかわる交流を目指してきた。今年度初めて本校の食品加工コースと笛吹高校の食品化学科の生徒との交流が実現した。思春期の多感な生徒たちがお互いにどのような受け止めをするのかと不安に思っていたことは杞憂に終わった。</p> <p>次年度は、本校生徒が笛吹高校を訪問し、授業の様子を見学させてもらったり、今年度のようなグループワークを行ったりする予定である。コラボ商品が実現に向けて前進することにも期待している。</p> <p>更に、農業生産コースと環境メンテナンスコースにおいても交流及び共同学習が実施できればと考えている。</p>		

問い合わせ担当（丸尾 祐己）

学校名	山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 0回
	地域交流 : 5回
	居住地校交流 : 0回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	特別活動：緑化活動やしおりの贈呈を通じた地域交流
実施した学部・学年	全学年（小学部・中学部）
実践の様子	
	
<p><u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u></p> <p>小中学部合同で花の寄せ植えプランターを作ったり、しおりを折り紙で手作りしたりして、学園近くの甲府伊勢四郵便局へ寄贈した。花の寄せ植えプランター作りでは、郵便局を利用する地域の方々を目を楽しませられるように、色の組み合わせや花の配置を考えながら作業を行った。しおり作りでは、地域の方々楽しんで手に取ってもらえるよう、折り紙を丁寧に折って絵を書き、オリジナルのしおりを作った。郵便局の方から、「毎回好評です。」との言葉をいただいたばかり、児童生徒の励みとなった。地域の方との触れ合いは限られたものであるが、近くの郵便局を知ったり、そこを利用する地域の方々に喜んでもらうことを意識したりと、学校と地域社会の関係を考えることができた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・本校は児童生徒の実態や、個人情報に配慮が必要なため、直接の交流は実施できない状況がある。今年度は緑化活動やしおりの贈呈、美術作品の展示等を通して、地域を知ることや地域の方々と間接的でも触れ合う機会ができればと考え、計画・実施を行った。 ・今後も、生徒の状況に合わせた触れ合いの機会をもつとともに、ホームページ、作品展示、地域だよりを通して地域とつながりを広げていくことや、さらなる交流の可能性を探っていくことが望ましい。 	

問い合わせ担当（ 横山 明子 ）